オフ・キャンパス・プログラム（OCP）10年の報告

金久保紀子*

筑波学院大学が平成17（2005）年から始めたオフ・キャンパス・プログラム（OCP）は今年度で10年を迎えた。平成18（2006）年には、文部科学省「平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）／地域活性化への貢献」に採択された。現代 GP 終了後も、大学の一つの教育プログラムとして、変化を繰り返しながら推進してきた。

本学の学生は全員、つくば市をはじめ県内各地のまちづくり、社会教育・環境・子供、スポーツ・国際・女性・文化・情報・科学・高齢者といった幅広い分野の活動団体に受け入れられ、学年が上がるのに合わせてより長い時間、活動に参加しながら学ぶ、という教育プログラムを実践している。毎年、100近い団体から学生受け入れの承諾を得、その中から学生は各自の興味関心に合わせて活動を選ぶというスタイルは、OCP スタート当初から変わらない。また、本学独自の教育プログラムを支えるために、特別なスタッフとして、社会力育成プログラムコーディネーター（通称　社会力コーディネーター）を配置している。社会力コーディネーターは、地域社会と本学学生を結び付ける重要な役割を担っている。

一つの教育プログラムの深化を報告する手立てとして、これまでも、学生への活動アンケートの結果などを中心に、紀要に発表してきた。10年の間に、サービスラーニングという学びの形態も、各大学で定着するに至り、本学もさらに教育と研究の両輪を備える時期に来ているだろう。そこで、OCP10年になる今年は、現在 OCP の授業である実践科目 A・B を担当している教員による論文を 5 本整えた。包括的に10年の OCP を振り返る論文から、多様化する学生の指導に関する論文、また、卒業生に対する調査研究など、幅広く OCP を見渡せる論文がそろった。各教員の持つ専門性をベースにしながら、地域に学生を送り出すうえで必要な調査・研究に、今度も勤しみたいと考える。

日本経済新聞社産業地域研究所が毎年実施している大学の地域貢献度調査において、本学はグローカル部門で、調査に回答した全国526大学中50位となった。地域社会への貢献という観点から、本学の学生の力や、教員の研究の成果をさらに地域に生かし、本学の地域における価値を高める方向性は、決して間違ってはいない。

本紀要に OCP に関する論文を集めて発行する段となり、これまで OCP を応援してくださった関係する諸団体の皆さまへの感謝の気持ちを新たにするとともに、教育プログラムとしての OCP の深化・発展を期したい。

＊　OCP 推進委員会　委員長